

様式③

提出日 年 月 日

## 2019年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「八重山の伝統芸能（組踊）について」

氏名：高良希咲、富永有里菜

所属学部学科：人文学部こども文化学科

## I. 初めに

伝統芸能は、日本に古くからあった芸能と技術であり、教養や娯楽、儀式や祭事などを催す際に付随して行動化されたもの、または行事化したものを特定の形式に系統化して伝承されたもので、詩歌、音楽、舞踊、絵画、工芸、芸道などがあるが、その中でも私たちは、舞踊の中の組踊に注目した。組踊とは、琉球王国時代の沖縄で向受祐・玉城親方朝薫が創始した琉球の歌舞劇であり、昭和 47 年 5 月 15 日、沖縄が日本へ復帰すると同時に、組踊は我が国の優れた芸能の一つであるとして、能、歌舞伎、文楽などと同じく国の重要文化財に指定されたものである。そこで、八重山の伝統芸能・組踊について調べ、それが地域の方々にとってどのような意味合いがあるのかを調査することにした。

## II. 研究の目的、動機

日本に古くからある伝統芸能のなかの舞踊から、琉球王国時代に創作された組踊に着目し、石垣島八重山の伝統芸能・組踊はどのくらいの種類があり、どのように琉球の地から石垣島八重山まで受け継がれてきているのか、また、石垣島八重山の組踊は、地域の方々にとってどのような意味をもたらしているのか、伝統芸能祭りは開催されているのかを詳しく調べたいと思ったため。

## III. 研究方法、地域、期間

事前学習では、沖縄大学の図書館での本や雑誌の活用、インターネットの活用。9 月 2 日～9 月 4 日まで、沖縄県石垣島八重山群八重山市へ行き、そこで図書館へ行き、伝統芸能担当者から話を聞いたり、地域の方にインタビューをしたり、伝統芸能祭のことについて、インターネットで調べた。

## IV. 結果

沖縄県には、現在 60 種類ほどの組踊があり、ある時期には、70 種類以上もあったとされている。組踊は、1719 年以前、玉城朝薫が創作されたとして、画期的な偉業を成し遂げたという。沖縄県にある組踊の中でも、八重山では、アヨー・ジバラ・ユンタの古謡があり、それらは、素拍子や笛太鼓で謡い、節歌には三線、箏、太鼓がついて演じられる。八重山の伝統的な楽器として、三線、箏、笛、太鼓がある。古来から受け継がれているものの中に、銭銅羅、哨口内（キツィラク）、法羅、橙、銭太鼓、銭棒、銭引き、太鼓（大胴）、小鼓（小胴）などがあるが、どのようにして八重山へ伝来・伝承したのかは、確証のないままであるとされている。八重山では、伝承芸能の公演が年に 2 回行われており、八重山伝統芸能として、鷺ぬ鳥（はずいぬとうり）節という舞踊や、赤馬（あかんま）節という斉唱が披露されている。これらは、八重山民俗舞踊保存会と、石垣市文化協会三線部会が行っている。この伝統芸能公演は、市民文化交流記念・ふるさと石垣公演、組踊「未来の

緑」と八重山芸能という名前で、石垣市民会館大ホールで開催されている。

また、八重山の図書館には、八重山だけの伝統芸能ではなく、ほかの地域の伝統芸能を集めた本も数多く置かれていて、「たらしま組踊」を調べてみると、たらしま組踊は40種類あるが、現在は「忠臣仲宗根豊見親組」「多田名大王」のみが、多良間に残っているという。この二つの組踊は毎年8月に踊り上映されている。

八重山伝統芸能について、地域の方々にインタビューを行い、地域の方々がどれだけ伝統芸能を大事にしているのか、伝統芸能は地域の方々を結ぶ力にもなっていることが伝わるものとなった。

## V. 考察、分析

私たちは事前学習をやるまで組踊は沖縄本土だけで伝承・継承されているものだと思っていた。また、組踊は中学生のとき玉城朝薫が創作したと学習していたが、種類などの詳しいことは学んでいなかったもので、大体5～6種類程度だと思っていたが、現在60種類ほどの組踊が受け継がれていることを知り、数多くの伝統芸能がここまで受け継がれているということは、地域の方々によって伝統芸能は大切にされていて、その地域の誇りになっているということを感じた。また、九月三日を「組踊の日」といって図書館で組踊を上映しており、八重山の方々の伝統芸能への意識は高いことも感じられた。

## VI. 今後の展望

琉球弧研究で取り組んだ調査から、八重山の伝統芸能を地域の方々が大切に受け継いでいるということを知ることができたため、これから私たちも、そういった地域の伝統芸能を受け継いでいけるようにしたいと思う。将来私たちは小学校教員を目指しているため、将来を担う子どもたちに組踊のすばらしさや伝統を伝えられるよう努力をしていきたい。今後、私たちは自分の生まれた地域の伝統芸能は何があるのか、調べ大切に受け継いでいけるような活動をしたい。また、私たちは小学校教員を目指しているということで、子どもたちに伝統芸能・組踊のすばらしさを伝えていきたいと思う。

## VII. 終わりに

今でも伝承・継承されている八重山の組踊はすごく魅力的で、地域の方々にインタビューした際、年に2回も行われている伝統芸能の公演は今でも行われていることから地域の誇りであると感じた。今回は時期が合わずこの公演を見ることができなかつたため、次八重山に行く機会があったら見てみたいと強く思った。

## VIII. 参考文献、調査協力

調査協力 八重山郡石垣市の地域住民の方々  
参考文献 尚敬王冊封式典

## IX. 指導教員コメント

研究を通して八重山芸能について認識が深まったことがわかりました。特に、組踊は沖縄全体で演じられていることでそれぞれの特徴や経譜などについても考察や分析をしていくとよかった。それは今後に期待したい。